

第 33 回日本死の臨床研究会の記録

文化講演

1. 物語を生きる人間の「生と死」—つながるいのち、つながるケア 柳田邦男 ◇は座長
◇井手 宏

教育講演

1. 日本人の生と死—われわれの時代をどう生きるか 濱口道成 ◇渡邊 正

講演 1 老いの風景—老いること・死ぬこと・愛すること 渡辺哲雄 ◇西村幸祐

講演 2 健康格差社会—bio-psycho-social モデルといのち 近藤克則 ◇長江浩幸

シンポジウム 1

1. ホスピスへの遠い道 その歴史と現在・未来—マザー・エイケンヘッドと岡村昭彦
総合コメント・司会 佐藤 健・安藤詳子

ホスピス運動黎明期の日本と岡村昭彦の^{ミッション}使命 米沢 慧

日本にバイオエシックスを生むためのオーケストラ、指揮者は岡村昭彦
—未完の楽譜の前で看護師のつぶやき 細野容子

岡村昭彦大兄へのレクイエム 栗本藤基

ホスピスへの遠い道—人権運動としてのホスピスへ 二ノ坂保喜

シンポジウム 2

1. 食といのち—終末期における栄養管理“食といのち” 総合コメント・司会 東口高志

シンポジウム 3

1. 地域・在宅における緩和ケア 総合コメント・司会 山崎章郎・飯田邦夫
生活の中で取り組む緩和ケア—自宅で安心して過ごすために 船木良真
地域における緩和ケアの新たなアプローチ—ライフトピアサロン 阿部まゆみ
終末期ケア・マネジメント—質を高める 4 条件とツール開発の試み 近藤克則

シンポジウム 4

1. いのちの教育—学校教育における悲嘆教育・悲嘆ケアの必要性・有用性・可能性
総合コメント・司会 得丸定子
企画コメント 天野幸輔
「悲しみ」から考える「いのちの教育」—学校教育における悲嘆教育の教材開発 高峯綾子
学校教育における自死遺族支援 野々山尚志

市民公開講座 2

患者と家族が笑顔を取り戻す「がん哲学外来をあなたに」報告書 樋野興夫 ◇花井美紀

講演 「いのちの授業」1 限目—いのちは、自分一人のものではない 高木慶子 ◇大西和子

講演 「いのちの授業」2 限目—生きる力に～語りかける闘病記 門林道子 ◇春原啓一

講演 「いのちの授業」3 限目—医療者のための「いのちの授業」～誰かの支えに
なろうとする人こそ、一番支えを必要としています 小澤竹俊 ◇高木仁美

- ランチョンセミナー 1 スピリチュアルケア～スピリチュアルケア～縁生から気づきへ
大下大圓 ◇橋本美恵子
- ランチョンセミナー 2 対談「いのちについて語りたい」
ー生命といのち 柏木哲夫
ーホスピスケアのこれまでと、今、に立ち会って考えたこと 内藤いづみ◇辻村恭江
- ランチョンセミナー 3 在宅ケアー自宅まで最期まで生きぬきたい人に寄り添える支え手になるために
秋山正子 ◇西川満則
- ランチョンセミナー 4 宗教とのかかわりー仏教による末期患者への精神的サポート 田代俊孝・笠原俊典
- ランチョンセミナー 5 小児ホスピスケアー小児と死 石黒彩子 ◇阿部まゆみ
- ランチョンセミナー 6 ナース講座ー日常生活支援から始まる意思決定支援 柏谷優子 ◇斎藤真理
- ランチョンセミナー 7 ボランティア活動ー「聞き書き活動」への思い 秋山希美子 ◇伊藤安恵
- ランチョンセミナー 8 地域連携ーホスピス緩和ケア地域連携パス 運用の難点 山田祐司 ◇村上 望
- ワークショップ 1 縁（えにし）を深めるスピリチュアルコミュニケーション
ー楽しいワークショップを通じてスピリチュアルケアを深めよう 大下大圓◇安田裕子
- ワークショップ 2 「LCP」看取りのケアにおけるクリティカルパス
ーLCP（看取りのパス：リバプール・ケア・パスウェイ）の日本語版の使用法
宮下光令・茅根義和
- ミニワークショップ 1・5 ストレスケア 1・2ーわたしらしさでたのしむ。わたしらしく生きる
小山田奈央 ◇鈴木由子
- ミニワークショップ 3 リラクゼーションと呼吸リハビリテーション 岸川典明 ◇水野敏子・横江由理子
- ミニワークショップ 4 「音楽療法①」音楽によるライフレビュー
ー懐かしい歌を歌い、思い出を語り合おう！ 山口理恵
- ミニワークショップ 6・7 癒しのマッサージ・自分のケア 堀田智弘
- ミニワークショップ 8 「音楽療法②」チームケアとしての音楽療法
ーホスピスの中での音楽療法の生かされかた 伊神妙子
- 体験講座 1 癒しとアロマセラピー 安藤元美
- 体験講座 2 「傾聴」ーこころの声、話してみませんか！ 市原蓉子
- 体験講座 3 「いのちときぼうのアート展」とは、医療情報とアートを展示し、多くの方と
「いのちと医療」を考える場を作ること 金田亜可根
- 体験講座 4 リラクゼーション・エステティックケアサービス 朝田麻友美 ◇近藤富子
- 事例検討 1 食べることは生きることー最期まで口腔摂取にこだわった
食道がん患者との関わりを通して 渡邊紘章 ◇本家好文・田村恵子
- 事例検討 2 抗がん治療における「治療方針決定のイニシアチブ」について考える
喜多嶋拓士 ◇前野 宏・辻川真弓
- 事例検討 3 「医療者と歩調が合わない」に込められた家族からのメッセージ
黒柳佳代 ◇林 章敏・白土辰子
- 事例検討 4 緩和ケア病棟入院後、重度の障害を残したまま原疾患が軽快した事例
長江浩幸 ◇細井 順・高沢洋子
- 事例検討 5 ハグとユーモアを添えた在宅緩和医療を実践して 第3報
岡原仁志 ◇藤井義博・関本雅子

- 事例検討 6 手術を受ける患者の不安や意思決定に対する関わりの重要性
 ー医療者のジレンマを通して考える 石本万里子 ◇蘆野吉和・馬場祥子
- 事例検討 7 余命を告知するまでの関わりを通して学んだこと
 ー残された時間を大切に過ごすために 大泉亜里沙 ◇高宮有介・富田英津子
- 事例検討 8 難治性の嘔気・嘔吐を有するがん患者の症状緩和についての一考察
 津本友美 ◇原 敬・松野英美
- 事例検討 9 生きる意味を見出せず早期より鎮静を希望した終末期がん患者さんの関わりから
 四十坊克也 ◇山口龍彦・清水千世
- 事例検討 10 全人的苦悩を抱える終末期がん患者の「物語」の紡ぎ方
 ー絵本・詩による新たなケアの可能性を探る 井上実穂 ◇太田恵一朗・長澤昌子
- 事例検討 11 難病の子ども2人を喪失体験した母親に対するグリーフケア
 矢田昭子 ◇末永和之・久保山千鶴
- 事例検討 12 腎癌合併妊娠の1例を通して悪性腫瘍合併妊娠において2つのいのちを考える
 上田恭子 ◇小笠原鉄郎・堀川良子
- 事例検討 13 余命告知後の患者の生きる目標を支えるチームアプローチ
 ー余命1ヶ月と向き合う1事例からの検討 有島みつる ◇中橋 恒・若村智子
- 事例検討 14 悪性腫瘍終末期に伴う低血糖の補正を中止することに対する倫理的問題
 高橋尚子 ◇黒子幸一・斎藤真理
- 事例検討 15 「寿命ってなんですか？僕はわからない」
 ー食わずに最期を遂げた患者の死生観に寄り添って
 矢尾知恵子 ◇池永昌之・柴田恵子
- 事例検討 16 緩和ケア病棟における補完代替療法
 ー奇跡を信じ続ける患者に対する家族と医療者の対応
 橋本 淳 ◇安保博文・梅田 恵
- 調査報告 1 特別養護老人ホームにおける終末期ケア行動に関する研究
 ー看護師とケアワーカーの役割認知と実践の比較 石井京子・他
- 調査報告 2 子どもをもつ若年層寡婦のストレスおよび自治体におけるサポートの現状
 倉林しのぶ
- 調査報告 3 看護学生への「緩和ケア教育」の実態 清水佐智子
- 調査報告 4 訪問看護師の在宅ターミナルケアの実施状況とユーモアセンスの検討 田中愛子
- 調査報告 5 遺児における親との死別体験の位置づけとその変化
 ー修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて 倉西 宏
- 調査報告 6 家庭におけるいのちの教育に対する意識と教育内容の検討
 ー母親の感じる困難さと実践意欲を比較して 林 和枝
- 調査報告 7 ホスピス・緩和ケア病棟におけるデスカンファレンスの機能
 ーホスピス・緩和ケア病棟師長の視点より 安藤悦子・他
- 調査報告 8 「身の置き所のない」倦怠感がある終末期がん患者の様相とそれに対する緩和ケア
 植田喜久子・他
- 調査報告 9 死後の処置を行う看護師への支援
 ー就職後6ヶ月時の新人看護師の思いに及ぼす影響 平野裕子・他